

科目名	人体の美と科学Ⅱ			Subject	Beauty & Science of Human Body Ⅱ			
サブタイトル	美容にかかわる人体の解剖生理学（からだのしくみと働き）							
科目基本情報			ディプロマポリシー「主な学習効果」					
開講年次	開講時期	必修／選択	DP 1 知識・技能	DP 2 主体的行動力	DP 3 課題解決能力	DP 4 多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力	DP 5 日本の伝統と文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力	DP 6 美しく生きる力を実践できる能力
2 年	後期	選択						
授業形態	単位	時間						
講義	1 単位	30 時間	◎		○			
ゲストスピーカー招聘回								
教員名	森 優紀			メールアドレス	yuuki.mori@・・・			
教員の略歴	2013 年 東邦大学大学院 医学研究科看護学専攻 博士課程修了 博士(看護学)、看護師、保健師、行政書士、3 級ファイナンシャル・プランニング技能士等の資格を保有 著書「看護学テキスト NiCE 成人看護学概論」2010 年、論文他							
実践的教育	○（該当することを想定しております。シラバス作成要領の「実践的教育」部分をご確認の上、ご記入をお願いいたします。）							
オフィスアワー	別途一覧をご確認ください。							

科目の概要								
本科目では、美容の対象である、人の構造と機能について学ぶ。人の主な構造には、骨格器系、筋系、神経系、感覚器系、血液・循環器系、呼吸器系、消化器系があるがそれらについて詳しく学習する。人の構造と機能についての知識を深め、理解することは人に対する美容技術を施術する上で重要である。例えば、頭部のデザインをするにあたり、頭部の骨格や筋肉の構造をよく理解することは、頭部のデザインを創造する上で重要である。よって、本科目では、人の構造と機能についての基礎的な知識を理解することを目的とする。また、最終的には本教科で得た基礎的な知識・理解が課題解決の一助となることも目指す。								
授業方法								
対面	オンライン	ハイブリッド	ディスカッション	プレゼンテーション	作品制作			
○	-	-	-	-	-			
授業の目標と関連するディプロマポリシー（DP）								
ディプロマポリシー	授業の目標							
DP1	人体の主な器官のしくみや働きと美容の影響が述べられる							
DP3	美容上の人体への課題を解決するためにデータを活用することができる							
教科書・教材								
教科書	保健，日本理容美容教育センター，2026 年							
参考文献	セラピストなら知っておきたい解剖生理学，野溝明子，秀和システム 2011							
各自準備教材								
評価方法								
筆記試験	実技試験	受講態度	小テスト	レポート	プレゼンテーション	作品	課題	その他
50%	-	10%	-	-	-	-	40%	-
なお、出席数の不足や不正行為があった場合は評価対象とはしません。								
課題（試験やレポート）のフィードバックの方法								
毎回課題の解説をします。								
履修上の条件・注意								
自分自身の出欠席数の把握は自己管理とする。classroom、メールをよく確認する。 ※何らかの社会的な状況変化等の諸般のやむを得ない事情により、授業方法、授業計画、評価方法等を変更する場合がある。								
本科目履修と関連する資格								
なし								

授業計画				
	授業内容	到達目標	時間外学習（予習・復習）	時間（分）
第 1 回	オリエンテーション 解剖学的正位、方向を学ぶ。	解剖学的正位、方向が述べられる。	・授業の内容については予習と復習が求められる。 ・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習は、毎回の課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解する。	60 分
第 2 回	主な体表各部の名称を学ぶ。	主な体表各部の名称が述べられる。	・予習：教科書の該当テキストを読み、内容を確認しておくこと。 ・復習：課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解しておくこと。	60 分
第 3 回	骨格系：骨のしくみと働きを学ぶ。	骨のしくみと働きが述べられる。	・予習：教科書の該当テキストを読み、内容を確認しておくこと。 ・復習：課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解しておくこと。	60 分
第 4 回	筋系：筋肉や関節のしくみと働きを学ぶ。	筋の分類と頭部の主な筋が述べられる。	・予習：教科書の該当テキストを読み、内容を確認しておくこと。 ・復習：課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解しておくこと。	60 分
第 5 回	神経系①：中枢神経のしくみと働きを学ぶ。	中枢神経と末梢神経の違いが述べられる。	・予習：教科書の該当テキストを読み、内容を確認しておくこと。 ・復習：課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解しておくこと。	60 分
第 6 回	神経系②：末梢神経のしくみと働きを学ぶ。	体性神経と自律神経の働きが述べられる。	・予習：教科書の該当テキストを読み、内容を確認しておくこと。 ・復習：課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解しておくこと。	60 分
第 7 回	神経系③：視覚のしくみを学ぶ。	目のしくみと感覚器官が述べられる。	・予習：教科書の該当テキストを読み、内容を確認しておくこと。 ・復習：課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解しておくこと。	60 分
第 8 回	神経系④：聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚、皮膚感覚の感覚器官のしくみを学ぶ。	耳、舌、鼻、皮膚のしくみと感覚器官が述べられる。	・予習：教科書の該当テキストを読み、内容を確認しておくこと。 ・復習：課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解しておくこと。	60 分
第 9 回	循環器系①：血液の種類と働きを学ぶ。	赤血球、白血球、血小板のはたらきが述べられる。	・予習：教科書の該当テキストを読み、内容を確認しておくこと。 ・復習：課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解しておくこと。	60 分
第 10 回	循環器系②：心臓と血管のしくみと働きを学ぶ。	心臓と血管のしくみが述べられる。	・予習：教科書の該当テキストを読み、内容を確認しておくこと。 ・復習：課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解しておくこと。	60 分
第 11 回	循環器系③：循環経路を学ぶ。	大循環、小循環、門脈循環の流れが述べられる。	・予習：教科書の該当テキストを読み、内容を確認しておくこと。 ・復習：課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解しておくこと。	60 分
第 12 回	呼吸器系：呼吸器の主なしくみと働きを学ぶ。	呼吸器のしくみとガス交換、呼吸運動の要点が述べられる。	・予習：教科書の該当テキストを読み、内容を確認しておくこと。 ・復習：課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解しておくこと。	60 分
第 13 回	消化器系①：主な消化器のしくみと働きを学ぶ。	主な消化器のしくみと働きが述べられる。	・予習：教科書の該当テキストを読み、内容を確認しておくこと。 ・復習：課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解しておくこと。	60 分
第 14 回	消化器系②：消化と物質代謝を学ぶ。	機械的消化と化学的消化の違いが述べられる。	・予習：教科書の該当テキストを読み、内容を確認しておくこと。 ・復習：課題テキストと合わせて 30 分復習し、次回再度確認するため、理解しておくこと。	60 分
第 15 回	人体のしくみや働きまとめと美容との関連を学ぶ。	人体のしくみや働きと美容の関係が述べられる。	・予習は教科書の該当テキストを読み、内容を確認する。 ・復習：これまで学習したテストや課題の内容を復習する。	60 分